

令和6年9月3日

関係者各位

産総研コンソーシアム
持続性木質資源工業技術研究会
事務局

第50回研究会開催のお知らせ

拝啓 平素より、本研究会活動にご協力いただきありがとうございます。
来たる9月27日(金)に、【別紙1】の要領にて第50回研究会を開催いたします。
今回、取り上げるテーマは、『木質材料の新展開～用途開発で注目される新技術～』です。

2020年の「2050年カーボンニュートラル」宣言以来、国内では脱炭素化に向けた様々な取り組みが急ピッチで進められています。特に、民間企業においては、大胆なイノベーションをうながし、新しい時代に向けた挑戦を応援するために、政府は「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を策定しています。そのなかでは、産業として成長が期待され、なおかつ温室効果ガスの排出を削減する観点からも取り組みが不可欠と考えられる分野として、14の重要分野を設定するとともに、2050年までの「工程表」も合わせて公表して、関係省庁と連携しながら実行計画を着実に実施していく目標を立てています。

木質資源に関して、14の重要分野を見ると、製造関連産業の“⑨食料・農林水産業”における高層建築物木造化が最重点項目となりますが、それ以外にも⑩カーボンリサイクル産業におけるプラスチック原料や⑬資源循環関連産業のバイオ素材・再生材においても、研究開発次第で十分コミットできる可能性も考えられます。

以上の観点から、木質資源・木質材料の新たな展開を期待させる取り組みやシーズ技術について今回の研究会では着目しました。カーボンネガティブの炭素貯蔵を担うことのできる木材・木質材料が、他の分野に進出していくことで、カーボンニュートラルという大きな目標に対して、どのように対応できるのか？今一度、皆様と考え、再確認する場を設定しました。

本研究会に参加を希望される方は、【別紙2】に記載のFormsから登録に必要な事項をご記入くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

【日時】 令和6年9月27日(金) 13時00分～15時35分

【主催】 産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会

【後援】 産総研マルチマテリアル研究部門、中部科学技術センター

【参加方法】①会場参加(定員40名)

<会場> 産業技術総合研究所 中部センター 大会議室3+4

②オンライン参加(定員制限なし)

※①の定員に達した場合オンラインでのご参加をお願いする場合があります。

【プログラム】 別紙1

【参加費】 無料

プログラム

『木質材料の新展開～用途開発で着目される新技術～』

13:00～13:05 開会挨拶

13:05～13:55 『木質材料と自動車』

資源枯渇問題やプラスチック廃棄問題が深刻化する中で、我々は材料として木材に着目している。木は育てることができる。木は、光合成により二酸化炭素を吸収する。木材にして自動車材料に利用することで、二酸化炭素を長期的に貯蔵できる。そこで、我々が行っている、自動車用途への利用に向けた木質材料の開発について紹介する。

静岡大学 農学部 特任教授/
トヨタ車体株式会社 材料技術部 主査
西村 拓也

13:55～14:25 『NEDO 先導研究報告 木質 CCUS を加速する資源循環システムの開発』

2022 年度 NEDO エネルギー・環境新技術先導研究プログラム のもと、2 年間の産学官の連携で開発することのできた要素技術について紹介する。二酸化炭素のネガティブエミッションを増大する木質資源のマテリアル循環システムの構築を目指して、「極力燃やさない、材料として利活用する」をコンセプトに、廃棄木材から有用資源の選別・再資源化、木質資源の高付加価値処理・加工に関わる開発技術を概説し、LCA 評価を通じてネガティブエミッションのシナリオを示す。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
マルチマテリアル研究部門 総括研究主幹
三木 恒久

---- 休憩 ----

14:35～15:05 『アブラヤシ幹廃棄物の持続可能な利活用に向けた技術』

熱帯諸国を中心にパーム油産業が盛んである。パーム油が採取できるアブラヤシは広大なプランテーションで栽培されており、年々その面積は増加している。一方で、膨大な量のアブラヤシの幹が廃棄物として発生しているが、利活用方法は確立していない。アブラヤシ幹の基本を概説した後に、アブラヤシ幹廃棄物の持続可能な利活用に向けた技術について紹介する。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
マルチマテリアル研究部門 木質循環複合材料グループ 研究員
堀山 彰亮

15:05～15:35 『構成成分・構造・物性の観点から捉える脱成分木材』

脱成分木材を足場に機能性物質を複合化させた木質材料の新たな展開が模索されている。こうした用途開発においては、機能化メカニズムだけでなく、付随する木質自体の材質変化も把握しておく必要がある。そこで、本講演では、脱成分木材を対象とした構成成分・構造・物性の解析事例を紹介する。

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
マルチマテリアル研究部門 木質循環複合材料グループ 研究員
暮井 達己

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会

第50回研究会『木質材料の新展開～用途開発で着目される新技術～』

参加申込み

申込み締切り 令和6年9月25日(水) 正午

申込ページ URL (Forms)

<https://forms.office.com/r/rzFmSfpzie>



《お申込み・お問い合わせ先》

〒463-8560

名古屋市守山区桜坂4丁目 205

国立研究開発法人産業技術総合研究所 中部センター内

産総研コンソーシアム持続性木質資源工業技術研究会 事務局

TEL:050-3522-7723(関 雅子)

E-mail:m-seki@aist.go.jp